

若手アカデミーの動向

島尻安伊子大臣との 意見交換会に参加して

所 千晴



平成28年2月26日、若手アカデミー会員の一人として、島尻安伊子・内閣府特命担当大臣との意見交換会に参加した。島尻大臣にはご多用の中、7名の若手アカデミー会員を笑顔でお迎え頂いた。

初めに、上田泰己・若手アカデミー代表（東京大学大学院医学系研究科教授）より、日本学術会議若手アカデミーの概要について、若手研究者の視点から社会の諸問題の解決に向けた様々な活動を行っている旨、説明があった。

次に、島尻大臣より、国民にわかりやすく毎日の生活と科学技術との関係を伝えるにはどうすればよいかについて、意見交換を求められた。若手アカデミー会員からは、物質的な豊かさへの科学技術の貢献をアピールするのみならず、多種多様化する価値観の中で、科学技術が文化や文明のまさに基盤を担っているという広い視点のアピールが重要であろうといった意見が出された。また、会員からは、個人の基本的な興味や関心は4歳ごろまでに確立されるといった自身の経験にも基づいたエピソードも紹介され、幼児初期の世代への科学技術分野のアプローチ活動も重要といった意見もあった。

幼児初期から学術に親しむ環境づくりの重要性から、話題は自然と男女共同参画へと移り、会員からは、研究機関と民間との間の人材交流や、研究機関におけるシニア世代の雇用流動性がない中で、若い世代のポストだけが任期制になった結果、特に若い研究者の雇用が不安定な状態となり、若い女性



意見交換会の様子

研究者は安心して子供が産めないなどキャリア形成に大きな影響を及ぼしているといった問題提起がされた。島尻大臣からは、それらの問題はまさにG7科学技術大臣会合での論点の一つであるというお言葉があった。

意見交換会は1時間と短いものであったが、様々な専門分野に属する若手アカデミー会員が国民への科学技術発信や男女共同参画といった社会的課題について大臣と共に意見を交換できたことは、自身の視野を広げると共に、今後の自身の研究者としての役割を再認識する貴重な機会となった。

最後に、当原稿に対して島尻大臣よりコメントを頂戴したので紹介する。

皆様との議論は非常に有意義でした。言うまでもなく、学術の発展においても『多様性』は極めて重要です。若手や女性の皆さんが更に活躍できるよう、政治の側でも環境整備に努めていく必要があると、思いを新たにしています。

●プロフィール

所 千晴（ところ ちはる）

日本学会会議連携会員・若手アカデミー会員、早稲田大学理工学術院教授

専門：資源循環工学